

作成者 もこ(@mokoxnico)※シナリオの自作発言・再配布はご遠慮ください。
やりやすいように改変して頂いて大丈夫です。その他何かわからないことがあればTwitterまで。
リプレイ動画の作成はご自由にどうぞ。その際出典の明記をお願いいたします。

	インセインシナリオ 「鳥籠の夢」
注意	このシナリオはブラウザゲーム「刀剣乱舞」の世界観を借りて作成されたものです。プレイヤーは刀剣男士となり物語を進行します。 上記の設定を踏まえてセッションして頂きますようお願いいたします。
導入	政府により以下の申し伝えがあった。 「遠征中に刀剣の消失が確認された。 原因は現在調べている。 各本丸は刀剣の管理に注意すること」 そんな中、連度の高いPCが遠征に向かう。 その先で、あなた達はその真実に向き合う事になる。
概要	2人用/4サイクル/特殊型
時間	大体3時間～
ワールドセッティング	西暦2205年 刀剣乱舞の世界観 オリジナルシーン表使用
ルールブック	インセイン・デッドループ使用可能
PCHO	PC1 あなたはこの本丸の第二部隊の隊長だ。 あなたの使命は無事に遠征から帰ることだ。 PC2 あなたはこの本丸の近侍だ。 今日は珍しくPC1と遠征の命を受けた。 あなたの使命は無事に遠征から帰ることだ。

※キャラクター作成についてはこちらを参照してください。
<https://docs.google.com/document/d/1Eu7N3cAysGNBJRt8idzdE8Jyp27rcZh9sgFES-0ZPTk/edit?usp=sharing>

以下GM用の資料となります。
描写等についてはやりやすいように変更してください。

背景

PCたちの本丸の未来の審神者が政府の不具合で刀剣を折ってしまう。
審神者は行き場のない怒りと悲しみにその心を壊し、過去を変えたいと願ってしまった。
そのままその体は闇堕ちし、時間遡行軍に似た生命体になってしまう。しかし後悔の念からか、無意識にPC達と同種の刀剣を集めては異空間に囲っていくようになる。
心が壊れた審神者は、他本丸の刀剣であろうと構わず無理矢理にこの本丸へ引き寄せ籠の中に押し込めていた。
しかしそのまま囲われる刀剣は少なく、外に出ていこうとする者達は怒りのまま折ってしまっていた。

そんな中、過去(PCたちの現在)の審神者が遠征を行う。
そうしてPC二人は未来の審神者に導かれてしまった。

※なお、過去(PCとしての現在)の政府は異質な空間と刀剣失踪についての情報を、各審神者に知らせてはいたが、その刀剣の種類が何であったかは名言していない。(今回の件は、過去の審神者があえて二人を向かわせたわけではなく、偶然起きてしまった、という事)

※設定注釈

当シナリオの「近侍」は練度の高い刀剣で、現在はあまり出陣はせず審神者に使っているものとする。
なので、第一部隊の隊長は別の刀剣になります。(もし使用PCが初期刀でなければ、初期刀が第一部隊隊長でもよいかもしれませんが、PC1と因縁がありそうな刀剣にしても良いかと思います)

PC1

あなたはこの本丸の第二部隊の隊長だ。
あなたの使命は無事に遠征から帰ることだ。

秘密: ショックなし

あなたはこの本丸に顕現してから、それなりの功績をあげているが、第二部隊の隊長までにしかなかった事がない。
あなたは、この本丸の第一部隊の隊長として本丸を導き、支えたいと思っている。
その為に、今回の遠征は大成功を収めて第一部隊隊長へのあしがかりにしたい。
あなたの使命は、「良き功績を収め次に繋げる事」だ

PC2

あなたはこの本丸の近侍だ。
今日は珍しくPC1と遠征の命を受けた。
あなたの使命は無事に遠征から帰ることだ。

秘密:ショックなし
あなたは長くこの本丸にて審神者を支えていた。
今回の遠征に際し傍から離れることに多少の不服はあるものの、
命じられた以上はきちんと成し遂げねばならないと思っている。
あなたの使命は、「審神者の命を守り、無事に帰る事」だ。

使用狂気カード
【依存】【疑心暗鬼】【パニック】【盲目】【絶叫】【忌み数】【敵か味方か】【望郷】【虚無感】【予知夢】

シーン表 1D8
1:湿った空気がまとわりつく。長くここに居たくない。
2:ばきん、という音が響く。何かが壊れたのだろうか。
3:鉄の匂いが充満している...ここは何なんだ...
4:これは夢なのだろうか。だとしたら悪趣味だ。
5:世界の果てのような暗闇が続く。不安感が募る。
6:見上げても空はない。圧迫感に息が詰まる。
7:耳を澄ましても無音。互いの息遣いが響くだけだ。
8:目を閉じると、本丸の様子が浮かぶ。早く戻らなければ。

導入

※できればキャラメイク時にPCたちの本丸の様子を確認する。
審神者像については自由にイメージさせる。
(初期刀はだれか、初鍛刀の刀(短刀)はだれか、聞けるなら聞く。それがPCでなければ、遠征を共に見送らせる)

最近遠征中に消息不明になる刀剣が後を絶たないという、政府からの報告があった。
遠征中に時間遡行軍が現れるようになった、という噂も聞く。なお現在政府が調査を進めている
最中であるという旨を伝えた上で、審神者はあなたたちに対し

「今までは練度の低い子を行かせていたけど、少し不安がある。
しかし遠征せずに資材が枯渇するのも避けたい。
申し訳ないけれど、二人で遠征に向かってくれないか」
と依頼する。

二人の承諾が得られれば、審神者は胸をなでおろして付け加える。
「先ほど話したように、物騒な事が起きているから、
もし何か不穏な事に巻き込まれたとしても、
命を大事に、無事に帰ってくるように」

PCたちはその言葉を耳にし、それぞれの志を持ち遠征へと向かう。

遠征先についたら【好きな知覚分野】で判定。成功したら好きなアイテムを手にする。

遠征も無事に終わり、あなたたちの本丸へ戻ろうという所で
あたりは一面に墨をこぼしたかのように暗転していく。
そしてPC達の意識は途切れた。

次に目を覚ました貴方たちは、どこか湿った、重々しい空気を纏う空間に居ることに気づく。
※これ以降灯りを見つけるまでは【暗闇】(インセイン2 P158)のルールが
適用される。(調査/命中/回避がマイナス2)
※ただし、刀種が【短刀】【脇差】の場合は無効となる。

ゾーキング(もしくは【情景】の判定)で以下の内容がわかる→HO公開。

- ・どうやら檻のような物に閉じ込められている事
- ・辺りには何かの欠片がある事
- ・四角い物が転がっている事

☆HO【檻のようなもの】

※このHOは暗闇のままで調べる事はできない。

-暗闇解除後-

檻に何か札のような物が巻いてあり、刀剣でその檻を切る事はできないようだ。

秘密: ショックなし

あなたがその檻に触れると、かさり、と乾いた紙の感触に気づく。
握った拍子に崩れてしまった物が手のひらに残る。
それは術式の書かれた札であり、そして赤黒くそまっていた。
深く思考せずとも、それが血によってついたものだという事は一目瞭然だった。
＞【マスターシーン: 小さな影】が挿入されます。(後半に記載)

☆HO【何かの欠片】

※このHOは暗闇のままでは調べられない。

-暗闇解除後-

固く、細かく折れて転がるそれは、間違いなく刀剣のものだった。

秘密:ショック全員

良く見ればそれはそれぞれのPC達と同じ刀剣のようだ。

自身の事でなくとも、ただの鉄屑へとなってしまった刀に対し、
恐怖を感じ得ずにはいられなかった。

これを見たPCは【破壊】で恐怖判定をする。

☆HO【四角い物】

目を凝らし良くみると、それが灯籠だという事に気づく。

秘密:ショックなし 拡散情報

灯籠をつければ、この視界の悪さも改善されるだろう。

しかし灯りをつける方法が見当たらない。

それに、ずっと持っていると、具合が悪くなっていくような感覚がある。

【霊魂】で追加判定ができます(補助判定の為手番消費なし)

成功すると、PCの不快感と比例するようにじわ、と灯りがとめることに気づく。

生命点か正気度を1点消費すると、この灯籠に明かりを灯す事ができます。(セッション中有効)

また、明かりを灯したPCは、この灯籠が「命」を成分にしている事に気づき【驚き】で恐怖判定をする事。

> 灯りがつくと以下の描写が入ります。

灯りがとまり、それによって得る感覚は安堵ではなかった。

自身を覆い捉える檻の全てに、見るだけでおぞましい何かが幾重に巻かれている事。

この檻の中だけでなく、その外に至るまでに、刀剣の欠片がそこかしこに転がっている事。

そして点った灯りの先に、終わりのない闇がどこまでも続いていた事。

それら全てが、あなたたちを絶望させるに十分だった。

地獄のような光景を目の当たりにし、あなた達は息を飲み、事の恐ろしさに気づくだろう。

【畏】で恐怖判定を行う。

→HO【刀帳】が追加される。

☆HO 刀帳

刀剣の収集状況や部隊について書かれたもの。

秘密:ショック全員

ごく一般的な刀帳のようだ。おそらくどこかの本丸の物だろうそれには、何振もの刀の名前が記載されていた。

更に読みすすめて行くと、部隊について記されている。

第一部隊、部隊長の欄にPC1と同じ名前が記載されている。しかし、それ以降の隊員の名前の上にバツ印があり、そのバツの付いた名前の中にはPC2と同じ名前も含まれていた。

PC1は【夢】で恐怖判定を行う。

PC2は【死】で恐怖判定を行う。

→HO【書きなぐられた紙】が追加される。

☆HO【書きなぐられた紙】

そこには一心不乱に書きなぐられた文字があった。

秘密:ショックなし

内容はこのようになっている。

「どうしてこんな事になってしまったのだろう。

あの時まだ彼らは中傷に至っていなかったはず。

なのに次の戦時に状況を確認すると重症に変化していた。

始まってしまった戦を止める術を私は持たない。

何もできずに折れて命ついでる彼らを、

こんな場所で見ているしかできなかった。

そばで隊長として進軍した彼は何も気付かなかったのだろうか？

政府の状況報告に誤りがあったのではないか？

こんなに大切に、一緒に過ごしてきたのに。

なぜ彼らが死ななければならない？

あの時、出陣を止めれば良かったのだろうか？

あの時に、あの時の私に、」

それ以降の文字は読めなくなっている。

【芸術】で追加判定が振れます。

→成功すると、その文字に見覚えを感じる。この文字は間違いなく、あなたたちのいた本丸の審神者のものだ。

ショック:全員

【マスターシーン:小さな影】

あなたが檻に触れ視界を落としていると、小さな足元が檻の向こうに見える。ゆっくりとその視界をあげると＜初期鍛刀の刀(もしくは初期刀/本丸設定で自由に改変してください)＞であることがわかった。

しかし、その姿に肉体は無いかのように、うっすらと透けている事がわかる。

視界をあげ、その顔を捉えると、その刀は困った様に眉を下げて口を開く。

「主様(呼び方は刀に合わせる)を、助けてほしいんだ。

ここは、壊れちゃった主様の作った空間で、...僕はもう、折れて何もできないから。

この檻から出す方法を教えてあげるから、主様を助けて。

...主様のまま、殺してあげてほしい」

最後の言葉には、迷いも感じられるが、意を決した様に、貴方たちに向き直りそう告げる。

GMメモ:PCが【書きなぐられた紙】に気づくまでは、同じ本丸だった部分については曖昧にRPLしてください。

逆に既に気づいていた場合、PCから「同じ本丸の刀だったか」と言う問いがあれば、肯定する。この場所が未来の本丸である事もRPに交えて構わない。

☆HO【NPC(上の刀剣の名前を入れる)】

あなた達に語りかけた刀剣男士。その姿は透けており、触れようとしても触れることはできない。

このHOに秘密はない。

儀式が公開される

※【書きなぐられた紙】の【芸術】に成功してからこのNPCに語りかける等をする、彼が同じ本丸の刀だった事に気づく。

※このNPCに感情判定を行い成功すると、クライマックスフェイズで補助行動をしてくれる(1ラウンドに一度達成値に+1)

☆儀式【檻から出る方法】

PC2の血液を鍵にかけると鍵が壊れ、檻が開く。

【どちらかの手番を消費しミドル戦闘を行い】、PC2の生命力を減らした段階で「檻から出る」と宣言すれば外に出ることができる。

檻の外に出ると【帰還する】という宣言が可能になる。

※儀式を知ったあとに狂気カードの公開等で生命点が減ったとしても無効

※二人は同じ檻にいるため居所ははじめから所持している

※サイクルが余るようなら、インセインの行動の中に「回復」があることをそれとなく教えてあげてください。

クライマックスフェイズ

- ・全てのサイクルを終了
- ・檻から出て【帰還する】という宣言をする

いずれかでクライマックスフェイズに移行する。

※檻からでないままサイクルが進行すると、第一ラウンドはプロット1固定、バツティングなし、回避不可とする。

PC2が攻撃を受け檻から出ることを宣言すれば、次のラウンドの開始時にプロットを決めなおす。

外へ出ようとするあなたたちの前に、ゆらり、と影の塊が立ちふさがる。

血の涙を流し、二本の角を携えた姿。

しかしその姿はあなたたちの本丸の審神者だっただろう、という事がわかる。

※ただし、【書きなぐられた紙】の判定に成功したPCのみ、その事実に気づく。

もしクライマックス終了時にどちらもその判定に成功していなければ「おぞましい気配の鬼のようなもの」と描写する。もしくは、クライマックス前に【情景】で判定をし、成功すれば審神者と描写する。

その姿は。歪んだ声音で、恨み事を呟く事しか出来ない。

「ナゼオレネバナライ...ナゼオマエハオレテイナイ...ウラメシイ、イツスベテ、コワシテシマエ」

そして時を同じく、ジリ、というノイズと共にあなたたちの耳に、政府の使いの声が響く

「ようやく発見しました！こちらにいたのですね。ご安心ください、もうすぐそちらに向かいます！

合わせて政府からの入電を読み上げます。

【今より三刻後、そちらに向かい異端の審神者の記憶もろとも

この空間を消去する。

生命維持のまま捕獲することが最優先事項となる。】

以上です。お二方はご自身の身の安全の確保と共に、悪しき者の捕獲をしていただきたい。

どうぞご武運を！」

とだけ告げて声は消えていく。

→政府命令の終了条件を開示する。

政府命令の終了条件

・3ラウンド経過時(第4ラウンド開始時)に政府がこの空間に到達します。

そのまま帰還を選択すれば戦闘を終了しエンディングに向かいます。

・エネミーは残りHPが10以下になれば【緊縛】の判定で捕縛が可能です。

※3ラウンド終了時まで「審神者を殺す」という選択をした場合、政府の介入者はこの空間には到達せずに戻ります。

(あくまでこの空間の除去が目的なので、手段は問わない)

> 選択式HOの配布

戦闘開始前に以下の内容を各PCに配布する。(エネミーが本丸の審神者と気づいているときのみ)

内容についての明言は不可。回想のみで公開。

※以下の使命は「どんな選択をしてもそれが貴方の行うべき使命である」事をさす。

クライマックス時に渡す追加選択HO

秘密：

この使命は選択によって上書きされる。

このまま生きて捕獲し政府にその身柄を渡せば、審神者はその記憶を消され

あなたの審神者であった事実はなくなってしまうだろう。

そうならば、あなたは元の本丸に帰る事はできず、また他の本丸に顕現する事になる。

ここで審神者を殺せば、あなたのいた本丸は残り、もしかしたら未来を変える事ができるかもしれない。

あなたの使命は「あなたとしての使命を選択し、実行する事」だ。

それがあなたの羽生なのだと、受け入れて。

※回想時は自身の選択した秘密で演出を行う。演出終了時に、改めて選択を確認すること(審神者を捕らえるのか、殺すのか、元の秘密を遂行するのか)

※クライマックス戦闘の際に追加アビリティ(投石兵/弓兵/銃兵)の処理を毎ラウンド忘れないようにする。

エネミーデータ

堕ちた審神者 (インセインP245 怨霊の改変)

プロット6

脅威6 怪異 生命力30

好奇心:情動 特技《焼却》《驚き》《恨み》《考古学》《靈魂》

【基本攻撃】攻撃《恨み》

【装甲】ダメージ-1

【復讐】《恨み》(インセイン2 P217異識)

目標一人を選んで命中判定を行う。命中判定が成功し、目標が回避判定に失敗すると、目標に1D6-1点のダメージを与える。この時、顕在化した【狂気】が1つあるたび、さらに1点ずつダメージが上昇する。

エンディング分岐

①3ラウンド経過後

↳【帰還】

あなた達の前に覆面姿の神官装束の人間が複数現れる。

そして目の前に降りたこんのすけに

「お疲れ様でした。少々お怪我もあるようですが、
ご無事ですね。では転移させます、今しばらく
目を閉じてください」

と、告げられる。

あなた達が目を閉じ、そして次に目を開けた瞬間。

そこはあなたたちの居た本丸だった。

審神者は戻ってきた貴方たちを気遣い、いくつか会話を進めるが、どんどんとその表情は曇っていく。
「...すまない、私のせいで」
その言葉をきっかけに、周りの空間が砂のようにこぼれ落ちる。
目の前の審神者は泣きながら笑み
「忘れてしまうけど、お前たちはすばらしい刀だった」
と最後に告げ、審神者自身も崩れ落ちる。
視界は再度暗闇に変わり、足元の覚束無い浮遊感の中で、
あなたたちはその記憶がゆるゆると溶けていくのを感じた。

①【審神者を捕縛し帰還】

捕縛された審神者は終始恨み言を呟いているが、ふと目の前のPCに気づくと「生きて、いたの」と声をかける。
しかしぼろぼろに堕ちた自分の姿に気づくと、察したように目を伏せる。
「そうか...私は願ってしまったのだね、過去を変えたいと。
それが奴らに近づく行為だと知っていながら...
こんなにも犠牲を払いながら、...私は過去のお前たちに
縋ってしまったのだね...」
そして顔をあげ、しっかりと二人を見つめると
「最後の命が、こんな事で申し訳ない。
君たちも私も、全てを忘れてしまうけど、
君たちは私の誇りだ。感謝している」
と告げる。ほどなくして空間が開く音がし、
覆面姿の神官装束の人間が複数現れる。
そして目の前に降りたこんのすけに
「お疲れ様でした。少々お怪我もあるようですが、
ご無事そうですね。では転移させます、今しばらく
目を閉じてください」
あなた達が目を閉じ、そして次に目を開けた瞬間。
そこは初めて見る世界だった。
あなたは刀剣男士として、どこかの本丸に顕現する。
痛みも記憶も、全て忘れて...

②審神者を殺す。

あなたの刃が、その身を貫く。
手応えの無かったそれが、じわじわと重みを増していく。
纏う影を溶かしながら現れた姿は、あなた達の本丸の審神者だった。
「...こんなことを、させて、すまない」
息も絶え絶えにあなたを見つめ、申し訳なさそうに眉を下げる。
「自分がこんなにも愚かな、人間だったとは...

思っていなかったよ…。怒りに我を忘れ、
こんな所まで、来てしまうとは…」
PCが申し訳なさそうにするなら
「そんな顔をしないで、大丈夫、未来はまだ、変えられる。
もう一度、やり直そう。共、に…」
そう告げて、審神者はだらりと腕を落とす。
刀剣とあなたの衣服を赤く染め、灯籠の灯りがゆるりと消えた。
墨を零したような黒に飲まれ、あなた達は意識を失う。

次に目を覚ました場所は、本丸の門の前だった。
その手には遠征で手に入れた資材。
体に傷はなく、遠征に向かった当時のままだ。
門を開ければ見知った本丸。あなたたちの帰還に気づいた短刀が
審神者を呼び、門の前に迎えに出てきてくれる。
「おかえり！無事で何よりだ。
政府よりお前たちの向かった先で時間遡行軍がでたと知らせがあったが、
無事に帰ってきてくれたら、そうか」
その表情は明るく、落ちる影は見当たらない。
あなた達の記憶には、審神者の最後の姿が残っているが、
あの未来に繋がらぬよう、日々を過ごしていく事となるだろう。

※②を選択した刀剣男士に政府からのお咎めはありません。
過去への干渉ではなく、起こるかもしれない未来への干渉の為、政府が見なかった事にしてくれます。

※仮にクライマックスでPCが生命力0になった場合
「檻からでなければ、こんなことには…」
という後悔の声が聞こえ、意識が途切れる。
そして次に目を開けた瞬間。
そこは初めて見る世界だった。
あなたは刀剣男士として、どこかの本丸に顕現する。
痛みも記憶も、全て忘れて…。